

階級的労働運動再生の手引き

労大ハンドブックIII『やがてくる時』と希望

第10回

東京ブロック

第十章 長期抵抗・統一路線

司会（佐久間）…第十章を東京北部県協の仲間から長期抵抗・統一路線の確立、五人組運動、職場地域での家族ぐるみの展開を鈴木さんにレポートしてもらい、学習したいと思います。

「構造改革」に揺らでいた社会党

鈴木…今回は三池闘争の敗北後、1960年12月1日には就労につき、不当な宮川組合長以下指導部を含む36名の解雇をはじめ、厳しい差別と弾圧の中で、1962年4月、長期抵抗路線が決定され、その長期抵抗・統一

路線がどのように確立したのかを明らかにします。

三池闘争後、日本社会党は、江田書記長の職場闘争一点張りでは限界がある。政策提言が必要だという、いわゆる「構造改革論」により揺らいでいました。

総評は、三池の職場闘争を活かした「組織綱領草案」を提案（1985年）したが、棚上げのまま、「職場闘争」を「職場活動」に変更します。

これを灰原書記長は、職場闘争の精神を抜きさそうとする改良主義の攻撃と受け止め向坂逸郎先生、塚元敦義本

所支部長と共に守り抜く決意で奮闘します。

しかし、敗北後は資本との持久戦論を根底に据えた路線が求められました。それが長期抵抗路線です。この長期抵抗のめざすものは、企業内労働組合の弱点を克服し、日本における平和革命をめざす労働者の運動の路線です。

展望を明らかにして反撃に転ずる決意と構えを確立しよう

日常の抵抗闘争の中で、「合理化は資本主義の正体を暴露する」という捉

◆みんなの学習講座



灰原書記長

え方と、闘いを次の5点で全体に明らかにしました(本文55ページ参照)。

当時は連日のように重大災害が激発し、保安対策は無策状態で、いつ自分が災害に巻き込まれるか不安な状態でした。「長期抵抗・統一路線」が就労後一年余の闘いを総括し、この路線の大衆討議を3カ月間行い、「行動方針」として、1962年4月29日に決定します。

当初は「統一」は外されていきました。「裏切った第二組合と統一」について受け入れられないという組合員の率直

な感情が残っていたからです。当時連続の死亡災害に対する抗議ストの提起は、「すべての災害は合理化によるもので、労働者の生命を奪う資本に対し抗議ストをしよう」という内容でした。三池労組員の死亡時は24時間スト、第二組合員の死亡時は時限ストで対抗しました。しかし、第二組合員は、平和協定があるために、ストは行わず、会社からは生産協力を受けるという分断攻撃がとられていたので、何回も職場討議を経て抗議ストを打ち、「統一」が挿入されるようになり、それ以降「反撃に転ずる決意と構え」の討論の始まりでした。

長期抵抗・統一路線とは

要約すると、資本主義の本音の理解を深め、これを打ち倒していく以外には、根本的な解決はないという確信を高めていく。確信の高まりが、労働者

階級の連帯の強化となり、資本家階級を圧倒する力とたたかいたが社会主義への道をきりひらいていくという方向を示したものです。

それを三池の現状にあてはめてみると、3点にまとめられています(本文56ページ参照)。

第一に、情勢が悪いときは柔軟な構えをとること。

第二に、しかし敵の脆弱点には思い切ったつけ込む。

第三に、柔軟な抵抗の中で反撃を開始する。

反撃に転ずる条件

「反撃」に転ずる条件として5点にまとめられています(本文57ページ58ページ参照)。

第一に、大衆の信頼が指導部に集中しているかどうか。

第二に、味方の士気が旺盛かどうか。

第三に、反撃に転ずる手段と目標をどう選ぶか。

第四に、敵の脆弱点の分析・把握が充分かどうか。

第五に、右のような諸条件が具体化し発展する度合いに応じて大胆な反撃に転ずる。

以上が日常の反合理化闘争における組織的な反撃の条件づくりです。

年間に多いときには2000名の脱落者があり、自己退職者も多くなり、死亡災害は続発する中でこの討論でした。内部には不安もあったが、第二組合内にも職制に対する不満が矛盾として拡大されていたので、学習も実践的な「保安法」「職制とは」「労働安全衛生法」等を学び、困難ではあるが、たまたか以外に働き続ける展望はないと、一人ひとりが職場の「点検メモ」を取り組むようになりました。

具体的な成果と主体性の強化

春闘やCO闘争に対する署名、カンパの取り組みは、第二組合の妻たちからも一定の協力をえることができました。それは、一人ひとりが点検メモ化を行い、改善の要求を粘り強く追求する行動が信頼を深め協力するようになった証しでした。

学習による、物取り主義の克服

徹底した差別と弾圧により、災害が激化するなかではやってもどうにもならないというアキラメや物取り主義が資本の思想攻撃として強くなってきました。それには学習運動により資本の本质をまなび、労働者階級の思想を高めることが基本です。

職場闘争と産業別統一闘争、

地域闘争の強化

三池労組の場合、職場闘争の発展の中から三池闘争をたたかい抜くためにも、炭労の強化を中心とする産業別統一闘争の強化という課題を取り組み、地域闘争についても、労農、労商、提携や勤評闘争、PTA活動等々に取り組んできました。

社会主義政党の強化

社会主義政党をどう強化していくかです。職場支部では、職場労員協議会が中心となり、地域支部では、校区労員協議会が中心となり、大衆への影響をつよめていく努力の積み重ねが三池労組のなかに社会党の影響力を定着させました。

五人組運動における組長の役割

大衆闘争路線の要は五人組運動です。

◆みんなの学習講座



それを指導する組長の任務は重要です。そのために、組長の指導三原則を設け展開されました。それは組員一人ひとりの自発性を引き出すためのもので、3点にまとめられています(本文59ページ参照)。

一、大衆性―大衆に学ぶ態度 基本は

生産点のたたかい、みんなでたたかう、学習活動の積み上げ。

二、指導性―同志的結合の徹底 経験主義であってはならない。思想性の高揚、申し合わせの徹底

三、規律性―その実行 組織的行動

(団結)の基盤である。

統一的前進をかかげ、「組織づくりは人づくり」と言われるように、この五人組運動は、長期抵抗・統一路線を確立する上での要となったのです。

司会(佐久間)・・レポートしていただきました。皆さんの方から質問、意見等を出してください。

島田・・「構造改革論」に揺らいでいたという「構造改革論」とは何ですか。

高井・・1961年当時の社会党では、江田三郎書記長が「構造改革論」を提起しました。これは事実上左社綱領を否定し三池闘争に代表される「職場闘争」「抵抗闘争」を否定し、「政策転換

闘争」に路線を転換しようとするものでした。

島田・・職場闘争一点ばかりでなく条件闘争にしろということですか。

高井・・そういうことです。

組織綱領草案とは

槍崎・・質問ですが、総評が三池闘争を生かした組織綱領草案を提起したとなつています。組織綱領草案とはどんな中身だったのですか。

高井・・総評内組織綱領委員会が二年かけてまとめ、1958年総評十回大会に提出した文書。大衆討議に付されたが、三池闘争敗北後の情勢変化で、採択されなかったものです。

自身は、職場闘争を軸に反合理化闘争を組織し、階級的労働運動を積み上げていくというものです。

磯部・・以前、坂牛元学長の学習会の中では、組織綱領草案を廃棄したことは



三池大震災3年忌抗議行動(1965・11・9)
右から3人目宮川組合長、二列目右端灰原茂雄さん、そのとなりが向坂逸郎先生

総評の決定的な誤りだった。日本の運命を決定する大闘争をストで闘ったのは三池だけではなかったのか、産別機能の弱さこそ問題にすべきであって、職場闘争を敗北の原因とするのは誤りだった。組織綱領を大会で決定し、総評全職場を三池のように強化すべきだということでした。

裏切った人と一緒に

やるのは難しい

島田：統一路線となっていますが、当初は統一がはずされていた、仲間との統一が受け入れられないという感情が残っていたとレポートされているんですけど、会社側の人間、インフォーマル組織の人と一緒にするのはおかしいよ、という経験は俺たちにもあります。

高井：運動的にも難しいね、地下鉄の職場で、ホームドア設置の時、会社側の人は、安全にするために、酔客転落防止のために設置するのだから、ホーム要員削減にはならないと言っていたので、「ホームドア設置したら、ホーム要員はいらなくなるよ」と話したけど、考えが違う人と同意することが大変でした。ましてや裏切った人と足並みを揃えるということの難しさがあります。

磯部：今話されたことは、人間の感情としてはよくわかります。三池では徹底した階級意識を高めていった学習が、統一を入れた大きな力になったのではないですか。

相手を信頼することから

司会（佐久間）：反撃に転ずる条件として5点にまとめられています、第一に、大衆の信頼が指導部に集中しているかどうか、とあります。皆さん、信頼が集中していますか。

島田：日常的な世話役活動には、努力しているつもりですが、まだまだ仲間からは、信頼されるとは思わないです。司会（佐久間）：田口さん、信頼を勝ち取るためにどういう努力をしていますか。

田口：自分自身が仲間を信頼していないと、相手も自分を信頼されていないと思う時があります。まず相手を信頼

◆みんなの学習講座



地域闘争の強化で「水俣労組」と共闘の職場分会の組合員と共に職場分会(筆者所属)の三池労組員

することが必要ではないでしょうか。自分が信頼していることを作っていかないと、信頼関係はできないのではないのでしょうか。信頼ということにあんまり縛られないようにした方が、良いと思う時があります。

島田…ああそうか、まずは自分が相手を信頼することから始めないと信頼関

係は作れないということですね。

金よりも団結に取り組んで

島田…学習によって物取り主義が克服したとあります。私たちも学習会で

「金よりも団結、差別に負けない組織作り」を、取り組んでいこうとしているけどこれは難しいですね。

槍崎…国鉄分割民営化の時のたたかいで、物取り主義と言われるかもと思いますが、新会社に採用されるのかという、そういう気持ちがありました。

渡部…労働者一人ひとり弱い者であつて、当然だけど学習によって階級意識を高めていく、これがやっぱり三池のたたかいから俺たちが学ぶべき中身になるのではないのでしょうか。

司会(佐久間)…前回も議論されましたが、五人運動における組長の役割指導三原則について、もう少し私たちの個々の指導三原則について繰り返し大

事な話なので議論を掘り下げたいと思います。

島田…前は、挨拶が大切だと思いましたが、それに加えて大衆からまなぶ態度、学習活動の積み上げ、このことが大衆性のポイントになるのですね。

磯部…前は、学習会を組織することで高まると言いましたが、経験主義であつてはならない思想性の高揚、前回言つたように自分が学習会を組織することが指導性高めることになりました。

槍崎…前回、決めたことは、守ると言つたけど、そのことが組織的行動の基準になるのだと思います。正にそのことが大切だと感じます。

司会(佐久間)…今日は、どうもありがとうございました。

次回は、三多摩県協の古賀さんから第十一章「三池00闘争」のレポートをしてもらい学んでいきたいと思いません。